キャリア通信

キャリア開発

今年度初めてのお便りです。新緑がまぶしい季節が続いていますね。皆様、いかがお過ごしですか？研修センターでは、今年度も院内の教育研修・看護部活動情報をお届けし、あなたのキャリアをサポートしていきます！

2025年5 月
富山赤十字病院
研修センター・看護部
Vol.119

新人看護職員41名を迎え、2025年度がスタートしました。
緊張しながらも元気でフレッシュな「ときとナース」の様子をお届けします！

新規採用者研修
新人看護職員研修

入社式では、緊張した面持ちで辞令を受け取り、竹村新院長からは暖かなメーッセージを頂きました。研修では、社会人として看護師として、赤十字職員としての心構えと医療現場での知識を学び同期の絆を深めました。

4月、5月は臨床実践の基礎力を習得する研修がたくさん計画されています。血糖測定やインスリン注射、口腔ケアなど、専門の資格を持つ看護師から実践に即活かせる知識技術を学びました。今後、OJTにおいて先輩看護師の助言を受けながら日常の看護実践ができることを目指します。また、夜勤に入る時期なので急変時に対応できるようAED研修や急変時の対応研修も実施しました。

4/24・5/13 血糖測定・インスリン研修

4/7・5/19 AED・急変時の対応研修

5/19 患者様の「食」を支える口腔ケア研修

＋ 5月は赤十字月間！
5月12日は「看護の日」
メインテーマ
「寄り添う、支える、助け愛」

5月20日、今年は全日空の方が病室を回り、患者さんの一日も早い回復を願って笑顔で「すずらん」を手渡ししました。
花言葉「再び幸せが訪れる」

ふれあい看護体験：東部中学校に行ってきました！

「看護師の仕事」「フレイル体操」「コミュニケーション」「脈拍測定」などを行ってもらい、看護の魅力や楽しさ、コミュニケーションの難しさを伝えました。「手」「目」を使う仕事だということに感動していました。是非この機会に看護に興味・関心を持ってもらい、将来の道に繋げてもらえたらと思います。

5/13 看護の日イベント
介護商品の紹介・部署紹介

竹村新院長・森副院長兼看護部長のご挨拶は、次ページで！

新人看護師の皆様へのメッセージ

竹村博文 新院長、森　太貴子 新副院長兼看護部長より、
新人看護職員に向けて暖かいメーッセージを頂きました！

竹村　博文　新院長

看護部のみなさま、はじめまして、4 月に院長に就任した竹村博文といいます。どうぞよろしくお願いいたします。

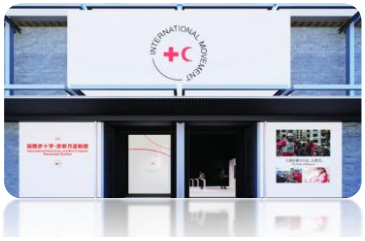
看護部は、41 名の新人看護師を迎えられて、新しい気分での今年度の出発だと思います。本来なら 4 月 1 日に新任の職員に、私から辞令をお渡しすべきところ、私も新任でしたので、私自身の辞令交付を受けに東京本社に行っており、皆さんとお会いできなかったこと残念に思っていました。大変失礼しました。従ってすこしだけ自己紹介させていただきます。福井市出身で、金沢大学卒業、専門は心臓血管外科です。この 3 月に金沢大学心臓血管外科の教授職を退職し、この春に当院に赴任しました。心臓外科領域では他分野に先駆けて、ハートチームという言葉を使ってきました。昔は主治医あるいは執刀医がいて、その下に助手や、循環器内科、看護師等がサポートするという形態の医療体制でした。2000 年頃から日本各地で医療事故が報告され、特に心臓外科での医療事故は命に直結し、大きく報道されました。ハートチームでは心臓外科医、循環器内科医、看護師、放射線技師、心エコー技師など多職種がチームとなって、患者を中心としたチーム医療を行います。外科医だけの独断に陥らないためにも、最も患者さんの近くにいらっしゃる看護部、看護師さんたちの存在、意見は非常に大きいのです。患者を取り囲むメディカルスタッフとしての自覚を胸に、赤十字精神を心に、一緒に患者中心の医療を推進していきましょう。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

森　太貴子　新副院長兼看護部長

月日が過ぎるのも早いもので、令和 7 年度を迎えました。5 月のゴールデンウィークもあっという間に過ぎました。看護部長になって 7 年目ですが、初めてゴールデンウィークに緊急呼び出しがありませんでした。

令和にはじまったコロナ禍によって、地域医療構想の変革のスピードダウンはありましたが、その一方で ICT 化等は急速に普及しました。また、働き方も随分変わってきました。DX 推進として業務効率を考える一方で、効率の先にある医療や看護の質向上が求められます。日進月歩で進むため、変化の激しさを肌で感じます。変化は医療現場だけではありません。働く、働ける人口減少は既に始まっています。便利である一方、不便さが増すところも出てきます。4 月から連載されているドラマ「対岸の家事」や「人事の人見」等を視聴しながら、働く現場や育児などの社会的な課題を上手く取り扱われていることに感心します。バスケや野球、サッカー、バレー等を観戦では、どこのチームもプロ集団ですが、チーム力といった点で、結果が異なってきます。医療や看護も、チーム力の結果と考えると、チーム力すなわち組織力として、同じ方向を向いて取り組むことが大切です。私たち個人の働き方は多様であっても、目の前のケアを必要とする患者や人々を救うのは、医療チームの結集です。それぞれが得意とする看護を発揮することで、看護師である自分を活かすことが大事です。相手も自分も大事にしたいですよね。

大阪万博
赤十字パビリオン



5 月は赤十字月間です。現在開催中の大阪万博に足を運んだ折には、赤十字のパビリオンにも訪れてみてください。所属する組織が何を大事にしているのか、考える機会になるかもです。

日本赤十字社スローガン 「人間を救うのは、人間だ」
Our world. Your move